MANLEY Stingray 音質評価

Manlay Stingray

MANLEY LABORATORIES, INC.

定価（税別）￥457,142
定価（税別）￥523,809（i-pod 対応モデル）

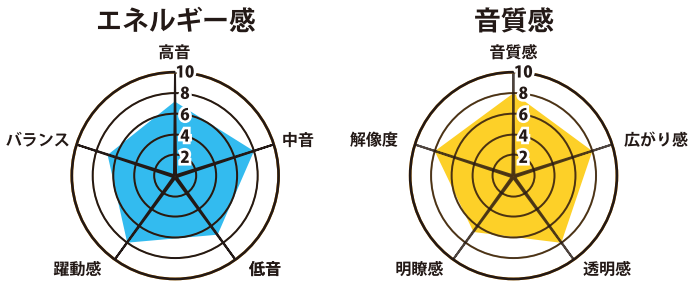
販売価格はお返事します

製品の概要

MANLEY Stingray は、Antelope Audio OCX でおなじみのプロメディアが輸入する、アメリカ製の真空管アンプです。日本ではあまり馴染みのないメーカーですが、アメリカではレコードのカッティングマシンの再生用アンプを作るなど、業界ではかなり評価の高い製品を作っています。Stingray は Manlay がコンシューマ（民生）向けに作った真空管アンプで先進的なセレクターとボリューム、そして iPod ドックを備えているモデルもラインナップされています。今回テストした Stingray は iPod 対応モデルですが、輸入を開始するときにはこちらのモデルを（受注生産）として iPod のないモデルをレギュラー品にする予定です。Manlay はアメリカのメーカーホームページで直販されている価格が現地価格です。逸品館では Manlay の製品をプロメディアを通じて仕入れますが、一部の真空管を軍用のムラードに交換するなど簡単なチューンナップを行い、AIRBOW モデルとして販売しています。日本で知名度の低い Manlay ブランドよりも価格をほとんど上げることなく AIRBOW モデルとすることで、音質・信頼性・アフターサービス面でお客様の信頼を得やすいと考えたからです。現在、このビジネスモデルについて Manlay 社と協議中ですが問題なく許可される予定です。

Stingray の特徴はその独特な形状だけではありません。かなり軽量（15.9kg）なのに中低音に十分な厚みとパワー感があります。出力は 32W（UL 接続）、18W（3 極管接続）です。UL 接続と 3 極管接続は、出力トランスの後側のスイッチで切り替えます。プロ機器メーカーらしく、出力管のバイアス調整が行えます。リモコンはかなり大型で無線と赤外線の両方に対応します。方式の切り替えは、リモコンの裏側のスイッチで行います。ボリュームは段階が非常に細かく音量変化が滑らかで、さらに左右のバランス調整が行えます。セレクターは電子制御で、電源の ON-OFF もリモコンで行えるなど操作はトランジスターアンプと同じです。

＜明＞---◆------＜暗＞　　＜柔＞---◆------＜硬＞



形式	真空管式プリメインアンプ
入力数	LINE×4（LINE×3，iPod×1）
出力数	TAPE OUT×1
使用真空管	ECC81×2、EL84×8、6414×2
最大出力（Ω）	32W（5Ω/UL接続） 18W（5Ω/3極管接続）
周波数特性	15Hz-58KHz、-1db
消費電力(無信号時)	85W（逸品館にて計測）
サイズ/重量	475×350×188(mm)/15.9kg
付属品	電源ケーブル、リモコン

総評

Stingray は EL84 を各チャンネル 4 本使ったパラプッシュ回路を採用していますが、EL84 のような小さなタマを使うと「透明な高音」と「厚みのある中低音」が両立します。真空管マニアの間では、大型直熱管の 845 や 300B、多極管では KT88 や EL34 などの人気が高く、EL84 は軽視されがちですが、今回テストしたアンプでは EAR の V12 も EL84 を使っていますが、EL84 を好むアンプ設計の専門家は少なくありません。Stingray は小型管を複数使ったアンプの良さが溢れていて、切れ味の良さと透明感、中低音のパワー感が見事に両立しています。ボリュームは非常に段階が細かく、使いやすく仕上がっています。特徴的なのは iPod を本体に直接差し込んで再生可能な事です。IPod Touch で試してみましたが、ファイルが MP3/320bps にも関わらず下手な CD を大きく上回る音が出たことに驚かされました。この音なら相当音にうるさい人からも文句は出ないでしょうし、これが iPod の音だと気付く人は、一人もいないはずです。斬新なデザイン、先進的な機能からは真空管らしくないデジタルチックな音を連想させられますが、実際の音はそれとは真逆の現代版真空管らしい魅力に溢れていました。気に入ったので、早速一台を試聴機として買い取りました。ミニチュア管をお気に入りのムラードに交換して聞いています。良いアンプです。

音質テスト結果　PMC　PB1i/Signature と組み合わせて

中音が少し膨らみ気味に感じられますが、低音は豊かに響きます。ギターの響きは木質的で美しく、楽器の高級感が伝わります。Selene は悲しい曲調ですがボーカルは落ち込むような悲しさはあまり感じられず、悲しみが優しさに昇華して柔らかく包み込まれるようなイメージで曲を鳴らします。音は大きく広がりますが音像は肥大せず、ボーカルの口元はシャープに引き締まって唇の動きが見えるようです。歌手が自分に向けて語りかけてくるような彫りの深い情緒の豊かさが印象的な音で Selene が鳴りました。

高音はわずかに金属的に感じられますが、子音は荒れず滑らす。バイオリンの音も耳当たりは柔らかいのですが切れ味も両立し、小型楽器らしい凛と澄み切った美しさがキチンと再現されます。中低音はほどほどに厚みがあり、不要に膨らまずチェロとコントラバスの音色の違いもしっかりと再現します。各楽器の旋律（パート）は濁らずに分離し、向こう側が透けて見えるような透明感のあるハーモニーが奏でられます。音色の鮮やかさ、透明感の高さは真空管アンプならではの再現性です。ゆったりと包み込まれるような柔らかく優しい雰囲気でヒラリー・ハーンのバッハが奏でられました。

Stingray はアメリカ製品らしく、POPS をびっくりするくらいの良い音で鳴らします。透明感に溢れ、ざらつきが全く感じず滑らかなのに、鋭い切れ味を感じさせる高音はトランジスターアンプではまず出ない音です。小型軽量にも関わらず、ベース・ラインには高音のエネルギーに負けないずしんと来る厚みとパワー感がありリズムを軽快に弾ませます。キラキラと美しく広がるシンセサイザー・シャワーの中心から、ガガのボーカルが力強くまっすぐ前に飛び出してくるのが快感で、「真空管アンプでなければ、POPS は絶対こんな躍動的に鳴らないだろう」と確信させてくれる、臨場感と躍動感溢れる音に驚かされました。小型でこんなに軽い真空管アンプから、このようなエネルギー感溢れる音が出てくることに驚かされました。

音質テスト結果　Focal 1028Be と組み合わせて

1028Be との組み合わせでは中低音が少し膨らみます。しかし、通常家庭で聞く音量では逆にその膨らみがとても心地よく感じられるでしょう。ギターの切れ味感は PB1i/Signature のそれより少し後退しますが、アタックの太さ、弦の硬さで 1028Be は PB1i/Signature を上回り、ギターの音をよりそれらしい強さで鳴らします。透明感が MAX に感じられる PB1i/Signature との組み合わせも悪くありませんでしたが、中音にウェイトが乗った 1028Be の音は有機的で暖かく、肉付きの良さが魅力的です。PB1i/Signature で聞く Selene のボーカルセッションは濁りがなく透明で、ボーカルが伴奏ときれいに分離して聞こえる独特の鮮やかさが印象的でした。1028Be ではボーカルにちょっぴり肉が付いて、グラマーな女性が情感たっぷりに歌っているイメージに変化しました。Stingray で聞く 1028Be は、正にフランスの音、PB1i/Signature が奏でるイギリスの音とはひと味違っています。

スピーカーに重いコーン紙のウーファーが使われていると真空管アンプでは低音が出にくくなるというのが通説ですが、なぜかユニットが重いはずの 1028Be と Stingray の組み合わせでユニットの軽い PB1i/Signature よりも中低音に厚みが出ました。スペック上も再生周波数帯域の下限は PB1i/Signature が 1028Be を上回っているのに、1028Be の低音に厚みと量感が出たのはなぜか？理由を考えてみました。真空管アンプはトランジスターアンプに比べ、ダンピングファクターが低いのでユニットを「止める力」が弱く、そのため音が終わった後もユニットがすぐに止まりません。ユニットが「余分に振動する」ため中低音の響きが少し増えるのでしょう。エンクロージャの響きが増えたように、中低音が膨らんで聞こえます。しかし、その膨らみは決して不愉快なものではなく、音楽に豊かさを与えてくれる良い響きです。バイオリンの高域は鋭さが消えると同時にやや切れ味が後退しますが、こういうやや太めの鳴り方はバイオリンに適度な色気と艶を乗せて耳当たりを良くしてくれます。楽器の分離はどのソフトを聞いても驚くほど鮮やかで、音が団子になりやすいこのソフトでも各パートの音を見事に分離し音場空間が大きく広がります。Selene でも感じましたが、Stingray はスイッチを切ることをためらうほど魅力的な音で 1028Be を鳴らしました。

PB1i/Signature との組み合わせでも感じた事ですが、Stingray は音の広がりとパンチ力に優れ POPS を実に生き生きと鳴らします。伴奏の音がふわりと部屋いっぱいに広がり、センターからボーカルがまっすぐに力強く飛び出す理想的な立体感がステレオ再生で実現します。サラウンドの必要性を感じないほど音が大きく広がり、定位がシャープに決まるこの独特なサラウンド感覚は非常に心地よいものです。スピーカーを PB1i/Signature から 1028Be に変えると、音色がさらにカラフルになって音楽の楽しさが深まります。PB1i/Signature と Stingray の組み合わせでは少しソフトを選ぶ傾向が感じられたのですが、1028Be と組み合わせるとすべてのソフトで音を止めることがためらわれるほど、一気に音楽にのめり込んでしまいました。1028Be と Stingray の組合せは、Focal の持つ色気と真空管アンプの魅力が組み合わさって、かなり強烈に「これが欲しい」と思わせる音でガガを鳴らしてくれました。